

MRI 検査室（教育医療棟 1 階）のご紹介

2015年5月に獨協医科大学病院 教育医療棟 1階に最新のMRI装置を5台（1.5テスラ 2台、3.0テスラ 3台）設置したMRI検査室がオープンしてから3年が過ぎました。5台の装置は順調な稼働を続けています。以前の検査室では4台の装置で一月当たり約1,300件の検査を行っていましたが、新しい検査室では5台体制になったことから、一月あたり約1,550件と250件も多く検査を行っています。そのため、検査予約待ち日数も平均30日だったものが、平均15日に短縮できました。

MRI装置は磁石と電波を使用しているためCTと違い被ばくをしない安全な検査ですが、一般的には検査時間が長く、金属類の持ち込みが不可能な検査です。しかし脳梗塞や脳腫瘍、血管異常などの他、脊髄や筋肉、関節疾患を見つけ出すのに効果を発揮します。また、造影剤を使用しなくても腹部、四肢などの血管を描出することが可能となってきました。

MRI装置の性能はテスラ（T）という単位で表される磁石の強さや、コンピューターの処理能力などに大きく依存します。現在使用しているSIEMENS社製 MAGNETOM Skyra 3.0T & Aera 1.5T は、導入後3年経った今も最先端の装置であり、高画質で診断価値の高い画像を安定して提供することで、病気の早期発見、早期治療に貢献しています。

また、MRI検査は検査時間が長いことが欠点の一つですが、現在の装置は新技術により短時間撮像が可能となりました。頭部ですと今まで約30分近くかかっていた検査時間が、現在の装置では約20分程度で高画質な画像を得ることができ、患者さんの負担が軽くなっています。

その他にMRI装置のトンネルの直径が60cmから70cmと広がり、トンネルの長さが198cmから173cmと短くなったことにより、開放的な検査環境を実現しました。圧迫感が軽くなることは、患者さんの不安を和らげることに繋がります。

またMRI装置は検査中に工事現場の様な大きな音が発生しますが、これも新しい装置では今までよりも静かになっています。

これからも豊かな情報を提供し、患者さんの快適な検査環境を工夫するMRI検査室にどうぞご期待ください。



New MRI装置 SIEMENS Skyra 3.0T



造影剤を用いずに得られた大動脈と腎動脈の画像